

日本語文法学会

The Society of Japanese Grammar

〈第25回大会〉

2024
12/14(土) - 15(日)

12.14 (土)

[会場] 九州大学 伊都キャンパス
〒819-0395 福岡市西区元岡 744
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/ito/>

12:30— 受付開始 [イースト2号館1階]

研究発表	A会場 (D-103講義室)	B会場 (D-105講義室)	C会場 (E-109講義室)	D会場 (E-110講義室)
13:00—13:40	[司会] 江口 正 (福岡大学) 原田 走一郎 (長崎大学) ビールのはうがよく飲みます —「比較」に注目して—	[司会] 志波 彩子 (名古屋大学) 大園 雄也 (関西外国語大学大学院生) 「てもらう」における恩恵性の 背景化と受動性の前景化	[司会] 丸山 岳彦 (専修大学) 中俣 尚己 (大阪大学) 文法形式に基づいた日本語文体 の多次的抽出	[司会] 窪田 悠介 (国立国語研究所) 坂本 瑞生 (東北大学大学院生) 助詞「ハ」と文構造が担う 主題的意味のタイプ
13:50—14:30	有田 節子 (立命館大学) 佐賀西部方言の条件節の時制と モダリティ	田川 拓海 (筑波大学) モダリティ形式「方がいい」の 形態統語的特徴	東寺 祐亮 (日本文科大学) 幼児における副助詞に対する 接続形式の習得時期の差異	張 琴琴 (北海道大学大学院生) 数量詞の追加によるアスペクト性 解釈の変化
14:40—15:20	[招待] 高田 祥司 (秀明大学) 日本語諸方言と韓国語の 過去表現のムード的用法	高 恩淑 (獨協大学) ラテアル文の構文的な特徴と その意味・用法について	山本 晃子 (立命館大学大学院生) 話し言葉における助数詞の選択に 関する一考察 —〈枚〉〈本〉〈つ〉〈個〉に注目して—	嘉藤 優太 (神戸大学大学院生) 日本語関係節の派生と節サイズ

15:20—15:40 休憩

15:40—16:20	[司会] 森 勇太 (関西大学) 佐藤 琢三 (学習院女子大学) 時の内部構造と境界 —「このごろ」「最近」の類義関係—	[司会] 平子 達也 (南山大学) [招待] 竹村 明日香 (お茶の水女子大学) 謡伝書における音声観察 —『音曲玉淵集』以外の資料から—	[司会] 永澤 済 (上智大学) 鄧 瑾瑄 (京都大学大学院生) 現代日本語における境界直後の 「だ」について	[司会] 林 淳子 (東京大学) 池田 尋斗 (関西大学大学院生/神戸大学) 可能構文の対象を標示するガ・ ヲの交替に情報構造は影響するか —指示距離による検証—
16:30—17:10	岡崎 友子 (立命館大学) 現場調査からみる指示詞の 指示領域 —評価・感情によるコンアの選択—	竹林 栄実 (東京大学大学院生) 「動くと撃つぞ」型条件文について —近世期以降のト条件文における例外—	[招待] 森 篤嗣 (武庫川女子大学) 普通体応答における「だ」の有無 —日本語教育文法として「だ」は省略は 妥当か—	佐藤 友哉 (清泉女学院短期大学) 経路を表す「を」格の対象性

17:20—17:55 会員総会 [イースト2号館1階 D-103講義室]

17:55—18:20 大会式典 [イースト2号館1階 D-103講義室]

18:30—20:00 懇親会 [イーストゾーン生協食堂 ビッグスカイ]

12.15 (日)

9:00— 受付開始 [イースト2号館1階]

	パネルセッション(大会委員会企画)	パネルセッション(一般)		
	A会場 (D-103講義室)	B会場 (D-105講義室)	C会場 (E-109講義室)	
9:30—11:30	副用語の歴史的研究の現在 [司会] 川瀬 卓 (白百合女子大学) 1. 川瀬 卓 (白百合女子大学) 文法史研究としての副詞研究 2. 林 禎映 (全南大学(韓国)) 評価を表す陳述副詞の史的展開 3. 川村 祐斗 (愛知淑徳大学) 接続詞における対人的意味の獲得 —サレバを事例として— 4. 川島 拓馬 (富山大学) 近代語における接続詞の成立と 多様な展開	日琉諸方言の推量表現の諸相 [司会] 船木 礼子 (神戸女子大学) 1. 松丸 真大 (滋賀大学) 「推量表現共通調査項目」の概要/ 京都市方言の推量表現 2. 日高 水穂 (関西大学) 広島県三次市方言の推量関連表現 3. 仲原 稔 (琉球大学非常勤講師) 沖縄語首里方言の推量関連表現 4. 船木 礼子 (神戸女子大学) 高知方言の推量表現	「“よい”文法記述」について 考える —分類・周辺・例外・理論といかに向き合うか— [司会] 三好 伸芳 (武蔵野大学) 1. 阿久澤 弘陽 (京都大学) 分類といかに向き合うか 2. 大江 元貴 (青山学院大学) 周辺といかに向き合うか 3. 鈴木 彩香 (千葉大学) 例外といかに向き合うか 4. 井戸 美里 (国立国語研究所) 理論といかに向き合うか 指定討論者 井原 駿 (津田塾大学)	アカデミック・ライティングの ための初級文法項目の再学習 [司会] 高梨 信乃 (関西大学) 1. 高梨 信乃 (関西大学) アカデミック・ライティングのための 対比の「は」の再学習 2. 朴 秀娟 (神戸女学院大学) アカデミック・ライティングのための テンス・アスペクトの再学習 —図表の提示を中心に— 3. 庵 功雄 (一橋大学) アカデミック・ライティングのための 自他の対応の再学習 —漢語サ変動詞を中心に—

11:30—12:30 昼食休憩

12:30—16:00 第25回大会シンポジウム(言語系学会連合共催、一般無料公開)

[イースト2号館1階 大講義室II]

音韻と文法の両面から見る「ドメイン」—音調句形成を中心に—

講師1: 木部 暢子 (人間文化研究機構)

講師2: 松倉 昂平 (金沢大学)

講師3: 下地 理則 (九州大学)

企画・司会・コメント: 平子 達也 (南山大学)

「助詞・助動詞」のアクセントから見る「ドメイン」 —西南部九州二型アクセントからの問題提起—

北陸方言のアクセントの実現領域 —韻律的単位と形態統語的単位の不一致—

文節概念を超えて —宮崎県都城方言の韻律句形成規則の記述試論—

主催: 日本語文法学会 <http://www.nihongo-bunpo.org/>

会長: 前田 直子

大会委員長: 宮地 朝子

開催校責任者: 青木 博史

※ 両日とも、書籍展示・休憩室を開設する予定です。

※ 本大会は、原則として事前の参加申し込みが必要です。大会参加費は、会員の方は2,000円、学生会員の方は1,000円です。

※ 非会員の方、会員で当日参加の方は3,000円です。シンポジウムのみご参加の方は無料です。

※ 本大会では、予稿集をデジタル化します。参加申し込みをいただいた方に予稿集PDFの閲覧URLをお知らせします。

※ 大会参加申し込みの方法や、大会プログラムの更新情報は、随時、学会ホームページ(「大会」ページ)・会員一斉メールでお知らせしていきます。

